

裁量が問われる

りを挙げた理由とは?!

現職と元県議の「騎打ち」となった高浜町長選。10ヶ月も前から名乗りを挙げ、選挙戦も終盤。準備万端、後は狼煙を待つばかり。有権者はすでに意中の候補者を決め、残るわずかな浮動票の行方が勝敗のカギを握るのか。両者は正々堂々、公明正大な選挙戦を展開することを期待する。

〈文責：嵯峨十郎〉

高浜町の将来が決まる町長選挙

4月19日(火)告示、24日(日)投開票の高浜町長選。現職の対抗馬として昨年5月、元県議の一瀬明宏氏(59)が早々に出馬表明。これを受けて、翌6月に現職の野瀬豊氏(55)が3選出馬を表明した。総人口わずか約1万人の小さな町の町長選に1年も前から名乗りをあげる候補者は珍しい。他所から転居して出馬するならいざ知らず先々代から家業の火薬卸商の傍ら、地域の名士として知られる家柄。

まさに、一瀬氏は旧家のボンボンである。平成7年4月から高浜町議を1期4年務めた。同11年、統一地方選挙の年で高浜町は町議選と県議選が重なり、平成9年に県会議長を務めた見城一宣氏(大飯町)が引退。旧大飯町と高浜町は大飯郡選挙区で定員が1人であり両町が2期ずつ交代することが慣例となっていたが見城氏が3期務め、次は高浜町に譲ると決まっていた。高浜町は町議会や商工会、町民の支援の下に一瀬氏を推し、大飯町からの出馬者もなく無投票で県議選に初当選した。以後

15年、19年と3期に亘り無投票で当選した。

次は町長の椅子を狙うのかと思いきや、2010年夏の参議院選挙で山崎正昭氏に對抗し、無所属で福井選挙区定員1から勇氣ある出馬。反山崎派を結集し福井市と奥越、嶺南地域で支援者を募ったがあえなく自民党の圧力に屈し、全国モーターボート競走会の応援を受け比例区での出馬となった。県民にはソッポを向かれ福井市開発の選挙事務所には支援者の人影もまばらでムードは上がらず惨敗。

それでも懲りずに、2013年の参院選に自らが支部長を務める自民党高浜町支部の推薦を受け公募申請するも稲田自民党県連会長の「勝てる候補が重要」の一言で断念。国政選挙に勝てる候補ではないということだ。参院選がダメなら町長選に…」では、3期12年、連続無投票で当選させていただいた高浜・大飯町